

2025 年 5 月 4 日 復活節第 3 主日 ヨハネ 21: 1～19「わたしを愛しているか」

今日の聖書箇所は、福音書の中でも特別に楽しい場所です。聖書の中からイエスさまの笑い声が聞こえて来ます。イースターの喜びの中しばらく主の御言葉にとどまりましょう。

多くの聖書の見出しで 21: 1－14 は「イエス、七人の弟子に現れる」となっています。しかし違う聖書があります。カトリックのフランチェスコ会聖書研究所の翻訳は「不思議な漁」です。そして英語聖書「The Message」では「FISHING」＝魚捕りとなっています。

春の夜、ペテロは仲間たち数人と、ひっそり集まっていました。それまで彼らはイエスさまの弟子として、みんな一緒に旅していました。その旅はイエスさまの十字架で突然に終わります。

「こんなはずでは無かった。私たちはイエスさまと、どこまでも一緒に行くはずだった。イエスさまは私たち皆を、神の国に連れて行ってくださると信じていた。そのイエスさまが捕らえられて、十字架刑によって殺されてしまった。けれど復活されたお姿を、私たちに 2 度見せて下さった。そしてまた消えてしまわれた。」

弟子たちは混乱していました。そこですぐに突っ走ってイエスさまに叱られた、あのペテロが立ち上がって言います。「もういい、私は漁に行く」すると仲間たちはその勢いに引きずられるようにして「わかった。私たちも一緒に行こう」と答えてペテロについていきます。

けれどその夜は魚一匹も取れませんでした。そこで私たちは気が付きます。これは他の福音書でイエスさまが漁師たちを弟子にした、あの物語が再びくり返されようとしていると！

夜明けの光の中にティベリアス湖＝ガリラヤ湖の岸边で、復活の主、イエスさまが微笑み

ながら立ってやさしく弟子たちを眺めておられます。けれど彼らには、それが愛するイエスさまとは分かりません。

そこでイエスさまから弟子たちに声を掛けられます。

「パイディア＝子どもたちよ」

これはギリシャ語の呼びかけの形です。

「こどもたちよ」

イエスさまは愛を込めて、弟子たちに呼びかけられます。

The Masage はこの箇所 John 21:5 をユーモアを込めてこのように翻訳します。

Jesus spoke to them: “Good morning! Did you catch anything for breakfast?”

<イエスさまは彼らに言った。「おはよう！きみたち何か、朝ご飯を捕まえたかい」>

さっき別れたばかりの友だちが、これから一緒に食事をしようとしているかのようです。

けれどイエスさまと気が付かない弟子たちは、疲れ果てて言います。「オウ」

これは「ノー」「いいえ」。そっけない否定の言葉です。

イエスさまはすぐに、舟の右側に網を下ろすように言われます。続いてイエスさまは言われます。「そうすればきっと、あなたがたは何かを見るだろう」

確かに彼らが見たのは、網いっぱいの魚たちでした。しかしそれだけではありません。

「主だ」イエスの愛しておられたあの弟子が叫びます。

彼らは岸辺で微笑む、イエス様のお姿を見たのです。まるで裸だったペテロは上着を着て、湖に飛び込みます。上着を着たのなら何も、湖に飛び込まなくてもいいでしょうに。きっ

とそれをご覧になって、イエスさまは声高らかに、笑い声を響かせた事と思います。

イエスさまは用意よく、もうすでに火をおこして、魚とパンを焼いておられます。イエスさまが料理をされるのは、この場所だけです。そもそも男が食事を作る場面が現れません。

けれどここでは、イエスさまが朝食の用意を調べ、弟子たちを招かれます。彼らはもう

「これがイエスさまから頂く食事だ」

という事がよく分かっています。けれど恥ずかしくて、「あなたはイエスさまですよね」と言い出すことが出来ません。そして静かに食事は終わります。

そして 21：15 沈黙を破られたのはイエスさまです。

「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」

この食卓を囲む中で、一番恥ずかしい思いをしていたのはシモン・ペテロでした。一番最初に耐えきれなくなって、魚捕りに出かけようとしたのです。彼はまた漁師の暮らしに戻ろうとしました。イエスさまの与えてくださった「人を捉える仕事」を諦めて、一度は捨てたはずの、魚を捕る網を持ったのです。だからイエスさまは言われます。

「あなたはわたしを愛しているか」

イエスさまは3回くり返して、ペテロに問われます。イエスさまはペテロの裏切りを責めておられるのではありません。この3度のくり返しが、ワルツのようにわたしたちの心を浮き立たせます。

けれどペテロの心は悲しみに沈みます。

「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく

知っておられます」そのとおりです。イエスさまはすべてご存知です。その上で、ペテロの犯した裏切りのすべて、犯した罪のすべてを知った上で、イエスさまは言われます。

「わたしの羊を飼いなさい」

これは裁きの言葉ではありません。赦しの言葉であり、喜びの言葉です。私たちは自分の心の中にある誰かへの愛を、言葉では証明することが出来ません。ただ、自分の中に燃え盛る愛を、誰かに分け与える事で、はじめて光輝いてあふれ出るのです。今イエスさまは、ご自分が弟子たちの朝食の準備を行われた事を通して、羊をやしなう尊い仕事を、ペテロに与えられました。ここから私たちイエス・キリストの教会が担う働きを「牧会」と呼ぶようになりました。教会の働きはまさに、イエスさまの愛を、隣人に運ぶことに尽きます。

「わたしを愛しているか」この質問は今も絶えずに、イエスさまから私たちに降り注がれます。

「わたしを愛しているか」

イエスさまがそうお訊ねになるのは、私たち一人一人を、イエスさまご自身が深く愛しておられるからです。この愛に応えるには、私たちも隣人を愛する事がたった一つの証明方法です。

イエスさまは微笑みながら、パウロにそして私たちに問いかけられます。

「わたしを愛しているか」

さあ私たちも立ち上がり、イエスさまに従って一緒に歩いて行きましょう。